

令和7年度 府立北嵯峨高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）【実施段階】

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>「独創質実（何事も自ら考え、主体的に判断し、真摯な態度と素直なところで行動する。）」の校是の下、高校生活の限られた時間の中、集中力と工夫により学習と部活動の両立を実践し、「人を育て、心を育む」教育を目指す。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 規律ある生活により、学力・体力・情操の向上を図る。 2 科学的認識を養い、創造性と実践力を育てる。 3 保護者・地域との連携を深め、生徒の進路についての願いを実現することに努める。 4 地域の歴史と文化遺産に対する理解を深め、その文化を守り育てる力を養う。 	<p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、授業改善に努めた。 (2)3年間を見通した進路指導と進路学習計画の見直しを行った。 (3)ICTの活用が積極的に進められた。HPを活用した学校情報の発信もできていた。 (4)交通安全啓発や交通マナー向上のための取組を実践した。 (5)図書委員会活動や教科指導により、生徒の読書活動が活発化した。 (6)いじめ根絶に向けて、組織的に迅速かつ丁寧に対応できた。 (7)Teamsを活用してタイムリーな生徒情報の共有に努めた。 (8)青空図書館の企画、ライブラリー commons の設置等、新しい取組を実践し、生徒の読書意欲向上を図った。 (9)創立50周年事業が、本校の環境や人材を最大限に活かした北嵯峨らしい充実したものととなり、大成功であった。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)家庭での自主学習にはあまり取り組めていない。自主的・自発的な学習習慣の定着を図る指導を推進したい。 (2)ICTの効果的な活用についてさらに研究を進めたい。スタディサプリの活用もさらに進める。SNSを活用して学校の魅力を発信したい。 (3)生活規律の確立に向けて、個に応じたアプローチで引き続き全教職員で粘り強い指導が必要である。 (4)交通マナーの指導を引き続き徹底して行う。 (5)学力向上に向けた講習・補習の在り方について引き続き検討する。 (6)教育相談会議のあり方を見直し、支援体制を構築する。 (7)生徒および教職員の危機管理能力と意識を高められるような取組を実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 観点別評価とICT機器の活用推進 日々の授業において学習内容を生徒が自ら学び身につけようとするための効果的な授業のあり方を研究し推進する。教員と生徒がともに授業をつくる意識を育む学習評価とICT機器の活用を促進する。 2 部活動、特別活動の充実と発展 心身共に成長し多感な時期の高校生にとって、豊かな人間性の育成を目指す上で部活動や特別活動が果たす役割を大切に、生徒が互いを気遣い切磋琢磨しながら「強い北嵯峨」を目指して活動するように支援する。 3 人間関係構築力の育成と個に応じた対応 集団の中で良好な人間関係を構築できるようになるために、生徒個々が置かれた状況を把握しながら、教職員が協調して生徒に自己決定の場を与え、自ら世界を広げようと挑戦する意欲の育成を図る。 4 嵯峨・嵐山の教育資源の積極的な活用 歴史と伝統を身近に感じることのできる恵まれた学習環境の中で校内にとどまらず周辺の自然や文化財、教育施設などの教育資源を積極的に活用して、地域とともに魅力ある教育活動を展開する。 5 創立50周年を経て次の四半世紀を展望 半世紀の時間をかけて醸成されてきた本校の校風をふまえたスクール・ミッションの実現を図るとともに、次の四半世紀で目指すべき本校の姿を模索する。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
学習指導	生徒一人ひとりが自ら考え、学びに向かう力を育む授業を目指す。教員と生徒が双方向で学び合い、主体性や思考力を高める学習環境づくりを進める。	観点別評価を明確に示し、生徒が目標を意識して学べるようにする。さらに、ICT 機器を活用して意見交換や調べ学習を取り入れ、協働的な授業を展開する。	B	各教科で観点別評価の明示やICTを活用した意見交換が進み、生徒の主体的・協働的な学びが促進された。一方でタブレットの適正な使用や提出物を最後まで出し切らせる指導には課題が残る。総合的な探究の時間や校外学習では、嵯峨・嵐山地域の自然・文化・商店街などを活用した学びが深まり、地域理解の向上につながった。スタディサプリやロイノート、3DプリンタなどICT・DX環境の整備が進み、自主学習や協働学習の幅が広がった。今後は生成AIの活用も含め、教科横断的な指導の在り方や生徒の主体性をさらに高める学習環境づくりが必要。
	地域の歴史・文化・自然に親しみながら、教室を越えた学びを実現する。身近な環境を教材とし、生徒の探究心や社会性を育てる学習活動を推進する。	嵯峨・嵐山地域の自然や寺社仏閣、地域の商店街などを活用し、体験型の校外学習を行う。地域交流やフィールドワークも取り入れ、主体的な学びを深める。	B	
生徒指導 特別活動	生徒自身が主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択、設定をして、この目標の達成のため、自発的、自律的に自らの行動を判断し、実行できるようにする。	法律や校則を守るという規範意識を高める。自己有用感や自己肯定感を高め、自己存在感を感じさせる。自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え、行動できる相互扶助で共感的な人間関係を築く。これらを通して、自己指導能力を育成する。	B	生徒の規範意識や自己肯定感を育む指導により、自ら行動を振り返り主体的に判断しようとする姿が見られた。生徒会活動や部活動、地域行事への参加を通して主体性や社会性が育まれたが、参加意欲にはばらつきがあり、より多くの生徒が関われる仕組みづくりが課題である。また、校則や生活習慣の指導では教職員間の共通理解が不十分な面もあり、指導方針の統一が必要とされる。自転車マナーなどの生活指導は改善傾向にあるものの、交通安全やヘルメット着用の意識向上に向けた粘り強い指導が引き続き重要である。行事運営では生徒主体の取り組みが進み、主体性や社会性を育成する機会となった。
	生徒会や部活動を活性化し、地域の教育資源を活用しながら生徒の主体性・社会性を育成する。	生徒会や部活動を奨励し自らを研鑽する姿勢と豊かな人間関係を獲得するとともに、地域の活動に主体的に参加することで社会性やボランティア精神による豊かな人間性の育成を目指す。	A	

進路指導	生徒一人一人の希望進路の実現に向けて、教職員が一体となり進路指導を行う体制を構築する。3か年を見据えた取り組みを充実させ、生徒のキャリア意識の形成と自己実現を図る。	生徒の学力状況・学習状況・進路希望をデータに基づいて客観的に分析し、自学自習の確立とともに、学力の向上と進路目標達成のための情報提供や指導体制を整える。	B	B	学力データや進路希望情報を活用した分析と共有により、教職員が連携した指導体制は整いつつあるが、十分に活用しきれていない面もある。模試等の結果を授業改善や個々の学習計画に結びつける指導が求められる。3年間を見据えたキャリア教育では、自学自習の定着や進路意識の深化に個人差があり、継続的な支援が課題である。キャリア教育講演会や高大連携、進路別説明会など多様な機会を設け、生徒の視野を広げる取り組みは効果を上げている。共通テストや大学入試 Web 化が進む中、指導内容の見直しも求められる。学校全体で生徒の第一志望実現に向けた支援体制をより強化していくことが重要である。
		キャリア教育を充実させ、校内外の連携のもとで生徒の進路意識の向上を図りながら、適性と希望に沿った生徒の可能性を広げる進路の達成に努める。	B		
人権教育	人権問題を正しく理解させ、いじめの根絶を図る。	あらゆる教育活動に人権の視点を入れ、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決や、いじめ等の未然防止のための意識を高め態度を育成する。	B	B	人権教育を通して生徒の人権理解は広がり、差別問題や多様な立場への理解を深める機会が確保された。3年間を見通した計画に基づき、多様なテーマの学習に取り組み、グループワークや映像教材を通して他者を尊重する姿勢が育まれている。人権問題を自分事として捉える意識には個人差があり、日常生活の中で人権感覚を育てる継続的な働きかけが課題である。人権週間に限らず、学校生活全体で人権が守られる環境づくりを進める必要がある。
健康・安全 教育	配慮を要する生徒に対して、教育相談会議を充実させ組織的対応の推進を図る。	日常の生徒観察を重視し、担任や教科担当者等との情報共有を図り生徒の状況を適切に把握するとともに、早期対応に努める。教育相談・関係機関・SC・SSW と連携しながら、生徒への支援を適切に行う。	A	A	教育相談体制の整備により、生徒支援は組織的に進められ、特別支援コーディネーターの配置や Teams を活用した情報共有など、連携の基盤が強化されつつあるが、より一層の協働体制の充実が求められる。家庭環境や個別の事情を抱える生徒への支援需要は増加している。SCや外部機関との連携を強化し、早期把握と適切な支援につなげる体制づくりが今後も重要となる。日常の清掃活動を通して美化意識や公共心が育まれているが、取組には個人差があり、私物管理や設備の丁寧な扱いなど、主体的に環境を整える姿勢の定着が課題である。
	教育環境づくりを推進するとともに、環境保護及び保健衛生の意識を高める。	日々の清掃活動を徹底し学校の環境整備を通じて、美化意識・公共心を養い、良好な学習環境を自ら作り出せる力を養う。	B		
図書館指導	図書館を活用した指導を充実させ、生徒にとって居心地がよく、新しい時代に適応した図書館を目指す。	教科との連携を通じて生徒の読解力向上を目指す。読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにする。ICTの活用も含めた図書館活動のあり方を研究する。	B	B	教科と連携した図書館活用や読書週間、ピブリオバトル、図書委員会の企画など、多様な取り組みにより生徒の読書機会が広がり、読書意欲や読解力の向上につながった。調べ学習がタブレット中心となり、図書館利用が減少しており、ICT時代に適した新たな図書館活動の在り方を検討する必要がある。文化祭や読書月間での企画は図書館利用のきっかけづくりとして一定の効果を上げている。
安全管理 情報・文書	安心・安全な教育活動の実践のため、適切にリスク管理を行う。	危機管理マニュアルの見直しおよび研修や訓練等の実施により、生徒・教職員の危機管理能力を高める。	B	B	オンラインでの防災学習を新たに実施できた。想定外の事態への対応力や来訪者対応など実践的な訓練とマニュアルの具体化が必要である。自然災害の増加を踏まえ実効性のある訓練とマニュアルの検証を重ねる必要がある。情報モラル教育では、専門家講演やルール整備を通して意識向上が図られたものの、SNS 利用や個人情報管理のリスクは依然大きく、生徒・教職員双方に継続的な研修が求められる。特に肖像権への配慮や ID 管理の徹底は重要である。
	ICT 活用の拡大に適切に対応し、生徒・教職員の情報モラルやセキュリティ意識の向上を図る。	多様な個人情報を適切に管理するためのルール作りや専門家による講演会の実施などを通して、情報管理体制の充実と情報モラルおよびセキュリティ意識の向上を図る。	B		
家庭・地域 社会との 連携	本校の特色や魅力を、保護者や地域の方々に広く知っていただけるような広報活動に努める。	ホームページや公式 Instagram の更新を積極的に行い、行事だけでなく日常の様子についても発信する。学校説明会等の情報発信を通して、中学校との連携もさらに深める。	A	A	HP や公式 SNS、学年通信など多様な媒体を活用した情報発信により、学校の教育活動や生徒の成長の様子が保護者・地域に伝わりやすくなり、学校の魅力発信に一定の効果が見られる。肖像権や個人情報管理の徹底が引き続き重要である。今後も学校運営協議会や PTA との連携をさらに強化し、地域に関われ、信頼される学校づくりを継続していくことが求められる。
	授業やボランティア活動等を通して、地域とのつながりを深め、地域に貢献できる学校を目指す。	総合的な探究の時間など、地域の文化や歴史的価値を活用した授業を充実させ、地域への理解や愛着を育む。学校運営協議会や PTA と連携を密にし、地域から信頼される学校づくりに努める。	A		

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<p>教育活動が大変活発に行われている。部活動に積極的に取り組み、学校行事を楽しむ生徒が多くみられる。自主的・自発的な学習習慣の定着が課題である。自主学習・家庭学習習慣の定着を図ることで、生徒の学力を向上させ、進学実績を上げることができる。しかし、難関大学に進学することを目的とするのではなく、自分がやりたいことや学びたいことを明確にして目標に向けて取り組めるように学校が支援してほしい。受け身ではなく、自ら考え、判断して、自分の道を切り拓くことができるようになってほしい。</p>
<p>次年度に 向けた改善の 方向性</p>	<p>学習習慣を確立し、学力向上を目指す。学習意欲を高めて、生徒一人ひとりのモチベーションを上げるための取組について検討する。課題の出し方についても工夫を重ねて、生徒に考えさせる機会を増やし、社会で役立つ力が身につけられるようにしたい。今年度実現できなかった大学との連携について、具体的に内容を検討する。</p>